



創立昭和46年  
(Founded 1971)

日本学術会議協力  
学術研究団体

2014年6月(106号) No. 106, June 2014

Web版

# CAJ News

日本コミュニケーション学会ニュースレター  
ホームページ: <http://www.caj1971.com>

日本コミュニケーション学会 事務局  
〒480-1197 愛知県長久手市片平9  
愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 五島研究室内  
電話0561-62-4111 & FAX0561-63-9308 e-mail: [cajoffice@caj1971.com](mailto:cajoffice@caj1971.com)



## 会長としての最後の年次大会を迎えるにあたって

会長 宮原 哲 (西南学院大学)

お忙しい毎日をお過ごしのこととお察ししますが、今年もこの時期がやって来ました。6月21日・22日、年次大会を開催します。会場は琉球大学。翌23日は沖縄では戦争で命を失った方々を弔う「慰霊の日」です。この時期に沖縄で初の年次大会開催を実現できることは感慨無量です。

沖縄という、太平洋戦争で大きな傷を受け、現在でも在日米軍の駐留の大半の負担を担う地で年次大会を実施することには大きな意味があります。戦争という、「対立」の究極、そして最悪の「解決策」によって日本だけではなく、アジアの国々が多くの犠牲を払い、今でも世界各地で戦火が絶えないという現実を真正面からとらえ、悲劇が繰り返されない努力をすることは、私たち研究者にとって特に重大な責務と言えます。

今回のテーマを「コミュニケーションと平和」にしました。例年以上の方々に発表の応募をいただき、質の高い発表が期待されます。学術講演には米国の政治学者、評論家で沖縄を中心に講演や執筆活動を展開しておられる、ダグラス・ラミス先生をお迎えします。ラミス先生は、『イデオロギーとしての英会話』(晶文社、1976)、『内なる外国——「菊と刀」再考』(時事通信社、1981)や、『憲法と戦争』(晶文社、2000)、『考え、売ります』(平凡社、2001)、『普通の国になりましょう』(大月書店、2007)など、多くの興味深い著書をお持ちです。

また、ひめゆりの塔など、沖縄戦にまつわる戦跡や資料館を見学する「平和学習ツアー」も計画しています。特に南風原文化センターでは学芸員、平良次子さんから直接お話を伺う予定です。戦後生まれではありませんが、沖縄戦の傷跡を身近に感じながら育った経験に基づいた語りを通じて、多くの訪問者と戦争の意味を考えたり、子どもたちと平和に関する疑問について話し合ったりといった、貴重な体験を共有していただきます。

美しい海と、穏やかで優しい南の島の皆さんに囲まれて、年次大会に参加していただけることを心待ちにしています。観光地として訪れるのとは一味違った沖縄でお目にかかれますことを楽しみにしています。

さて、この年次大会をもちまして、会長としての任期を終えます。2009年7月、前会長だった今堀義教授の急逝により、図らずも会長に就任し、約5年間にわたって会長を務める機会をいただきました。それまで決して「まじめ」とは呼べない会員だった私が何とか5年にわたって会長を務めることができたのは、周囲の理事、それに会員の皆様のご理解、ご支援があったからこそ、と強く感じています。

今日、「コミュニケーション」ということばが企業や政府で使われ、社会全体でその重要さが認識されるようになりました。新入社員に求められる能力のうち最も重要な能力だったり、社会で起こるさまざまな問題の原因、同時に解決法がコミュニケーションだったり、その重要さが叫ばれるようになったことは私たちにとってはうれしいことです。しかし、それが指すものが単なる英会話力だったり、プレゼンの能力だったり、ということを感じるたびに寂しさと、現在でも「コミュニケーションとは？」という原点の疑問に解を出し切れない無力さも感じられます。

おそらくいつになっても皆が合意できる定義など不可能でしょうし、同時に必要ないのでは、とも感じます。数あるコミュニケーション学の研究領域によって、また研究方法や哲学によってはとらえ方も異なって当然です。人と自分は違うということを知るからコミュニケーションが始まるとすれば、この相違点を追い求め続けることも私たちの使命でしょう。

今後も日本コミュニケーション学会の発展のためにご協力をお願いいたします。

# 第44回年次大会へのご案内

第44回年次大会は琉球大学にて開催されることになりました。琉球大学は現在の首里城のある場所にありましたが、復帰後には沖縄県となり、琉球大学も国立大学となり西原町字千原に引っ越しをいたしました。首里城からは離れましたが、中城城址に近い位置に移動しました。「城」から遠ざかることはなかったこととなります。因みに沖縄にはかつての琉球王朝を偲ばせる城跡が多くありますので、学会前後に訪ねてみてはいかがでしょうか。

琉球大学へのアクセスですが、那覇空港到着後モノレール（ゆいレール）に乗って頂き、終点の首里駅で下車して、その後タクシーで琉球大学法文学部までお越しください（空港から首里駅までは約30分）。タクシーご利用の際はお一人で乗るよりは2、3人でご利用下さればと思います。勿論、レンタカーを利用する方法もありますが、不慣れな方はなるべくカーナビ付きの車をお選び下さい。琉球大学はキャンパスが広く、ゲートが3箇所ございます。各ゲートから大会会場への道順をYouTube上の動画にてご案内いたしますので、ご来場の前にぜひ一度ご確認ください。YouTube上で「CAJ 琉球大学」と検索いただきますと案内動画がご覧いただけます（※動画の公開は5月中旬を予定しております）。

多くの方が2、3泊なさるので食の案内をいたしたいと思います。まずは「沖縄ソバ」ですが、これは沖縄本島内でも種類が豊富にあります。那覇ソバ、小禄ソバ、与那原ソバ、等等。場所によって具もソバの形状も異なります。モズクを入れた「モズクソバ」、イカスミを入れた「イカスミソバ」、「テレビソバ」というものもあります。「トンソク」がトッピングされているとお考え下さい。コラーゲンたっぷりですので沖縄的美男・美女になりたい方へはお勧めいたします。そのままの美男・美女で結構ですという方にはゴーヤーチャンプルーをお勧めします。お酒は「泡盛」、「オリオンビール」もありますが、ワインの県産品もあります。変わったところではパイナップル・ワインがあります。

本大会のテーマは「コミュニケーションと平和」となっていますが、沖縄は日ごろから「平和」とは何かを考えさせられる場所です。本大会をきっかけに皆様と「平和」について語り合い考えることができればと切に願っております。シナ、メンソーリョー（皆さん、お越しください）。

（琉球大学 兼本 円）

## 学 術 局 報 告

### 第44回年次大会について

- ・第44回年次大会は、2014年6月21、22日の両日、琉球大学（沖縄県中頭郡西原町）にて開催されます。現在、兼本円先生（琉球大学）を大会実行委員長として順調に準備が進められています。
- ・琉球大学は、ゆいレール首里駅からタクシーで20分ほどの場所に位置しています。タクシーの他、那覇空港や那覇市内からバスでもアクセス可能です。詳しくは、大会プログラムおよび琉球大学のホームページをご覧ください。
- ・琉球大学のキャンパスは大変広く、那覇空港発の高速バスが停まる北口から会場となる法文学部新棟まで徒

歩で30分ほどかかります（会場最寄りの出口は東口です）。

- ・年次大会初日には、「コミュニケーションと平和」というテーマのもと、基調講演とシンポジウムが開かれます。今回の基調講演とシンポジウムは一般公開され、誰でも無料でご参加できます。基調講演は「コミュニケーション論による「憲法」の分析」という題で、津田塾大学名誉教授のダグラス・ラミス先生にお話しいただきます。シンポジウムでは、福本明子先生（愛知淑徳大学）と藤巻光浩先生（静岡県立大学）にもご登壇いただき、年次大会テーマについてラミス先生とともに話をすすめていきます。
- ・2日目午後には、「平和学習ツアー」と名付けられたバス・ツアーを実施し、南風原文化センター、沖縄陸軍病院壕群、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館を訪れます。ツアーには別途参加費用（1,000円。那覇空港までのバス代と施設見学料込）がかかり、事前申込制（先着45名）となっております。参加を希望される方は、下記の申込サイトより早めにお申し込み下さい。
- ・懇親会は琉球大学内で開催されます。懇親会終了後は市内行きのシャトル・バスが運行し、懇親会参加者は無料でご利用できます。
- ・年次大会にはオンラインで参加申し込みいただけます。CAJのホームページから、年次大会の申込サイトに進み、手続きを完了してください。大会への参加登録だけでなく、懇親会、お弁当、シャトル・バス（2日目）、平和学習ツアーについてもこのサイトからお申し込みいただけます。宿泊についても、那覇市内のホテルをこのサイトからご予約いただけます。なお、オンライン申し込みは、一昨年度からご協力いただいているトップツアー株式会社によって運営されています。
- ・申し込みの際し、会員番号を入力する欄があります。会員番号は、ニューズレターなど学会から送られる郵便物のあて名の一部に記されています。大会登録に際しては、この番号をご参照下さい。
- ・最後に、今年度の研究発表の応募状況について報告いたします。2014年2月20日の締め切り時点で、個人論文発表22件、パネルについては、2つの研究会と九州支部を含む計5件の応募がありました。5人の査読者の評価をもとに、これらすべてを採択し、理事会で承認されました。ご応募いただき、誠にありがとうございます。

（学術局年次大会担当理事 師岡淳也）

## ジャーナルに関するお知らせ

現在2013年度の学会誌「日本コミュニケーション研究」の編集作業の大詰めを迎えています。長らく学会を牽引してきた「ヒューマン・コミュニケーション研究」「スピーチ・コミュニケーション教育」の二冊の学会誌は、今回より「日本コミュニケーション研究」に統合されます（年2回発行）。巻数は「ヒューマン・コミュニケーション研究」を引き継ぎ、また6月から年度が替わるため、今年度は「第42巻特別号」として一号のみ発行します。

内容としては、3本の研究論文、特別企画として第43回年次大会基調講演者の佐藤学先生の論考を掲載する予定です。6月上旬には皆様にお届けできるよう順調に作業を進めていきたいと思っています。どうぞお楽しみに。

次号にあたる第43巻第1号への投稿は1月末日に締め切られ、計8本の論考が寄せられました（うち一本は再査読論文）。こちらは2014年11月発行を目指し、現在査読を進めているところです。

現在、「日本コミュニケーション研究」第43巻第2号に掲載する投稿論文を受け付けています。投稿は以下のメールアドレスに添付ファイルにて送付してください（投稿前に、必ず公式ホームページにて詳細をご確認ください）。次号の締切は7月末日です。半年一度へと増えたこの機会をご活用いただき、どしどしご投稿く

ださい。皆様からの投稿がジャーナルの原動力であり、生命線です。

journal@caj1971.com

私事ではありますが、このたび編集委員長としての4年間の任期を全うし、その職を退くことになりました。「ジャーナル改革」という名の「建物改修工事」ばかりで、肝心のジャーナルの質向上という「インテリアコーディネーター」が手薄になり、大した貢献もなく去ることに関して申し訳なく思います。かつてGHQ最高司令官であったダグラス・マッカーサー元帥は、Old soldiers never die. They just fade away. という言葉を残し、一線から退きました。4年の任期を終えた今、私はマッカーサーが抱いていただろう物悲しさを胸に抱き、編集委員長の役を降りたいと思います。とはいいいましても、近くに留まりますので、今度はサポートという形で私の持てる経験を役立て、ジャーナルの充実と学会の発展に寄与することでできれば幸いです。支えていただきました方々すべてに感謝申し上げながら、ジャーナルの「船出」を港の側で見送りたいと思います。4年間ありがとうございました。

(副学術局長：ジャーナル担当 吉武正樹)

## 2013年度ジャーナル『日本コミュニケーション研究』掲載論文

### 巻頭言：

宮原 哲「祝！回り道の産物、『日本コミュニケーション研究』創刊」

### 特別企画：

佐藤 学「学びにおけるコミュニケーションの構造—対話的实践による学びの共同体へ—」

### 研究論文：

池田理知子「『日常的差別』に関する一考察—水俣病資料館のある「語り部」の講話から—」

花木 亨「バラク・オバマと人種—『A More Perfect Union』演説再考—」

松永正樹「女性いじめ被害者の性的リスク—周囲からのサポートの役割に焦点をあてて—」

### 編集後記：

吉武正樹「『改革』と『革命』—編集後記にかえて—」

## 学 会 賞

2014年3月9日に本年度の学会賞への応募を締め切りました。現在、「書籍の部（研究書の部）」1件と「論文の部」3件について審査をおこなっています。審査結果の発表および受賞者の表彰は、6月21日の年次大会総会でおこないます。





# 事務局報告

## 1. 2014年度年会費の請求について

2014年度の年会費は7月中旬頃に請求させていただきます。

## 2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

6月21日に開催される理事会までに2011年度、2012年度、2013年度の会費が全て未納の場合には、会則第12条内規に従い、特別な理由がない限り除名させていただきます。また会則第8条内規に従い、2012年度の会費が未納の場合（2013年度入会者は除く）にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

## 3. 会費残高の確認について

学会ホームページの「会員各種手続き」→「会員登録情報変更手続き」のページにて、会費の残高（未納金額）をご確認いただけます。振込用紙を紛失された方は、郵便局に備え付けの用紙をご利用いただくこともできます。残高をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みください。

郵便振替口座番号：00190-0-721181

加入者名：日本コミュニケーション学会

## 4. 学生会員・準会員登録申請について

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは同封の用紙をご利用になるか、学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で学会支援機構までお送りください。

## 5. 住所等変更届けのお願い

入会された時点と所属や住所、またはメールアドレスに変更がある方が多くいらっしゃいます。そのため、会員情報をこの度一斉に更新致します。プログラムに同封されている総会の出欠ハガキに通信欄がございますので、変更のあった方はお手数ですが最新情報を必ず記入の上ご返送ください。ニュースターも紙媒体のものは今回で終了いたしますので、特にメールアドレスの変更にご注意ください。

## 6. 学会発刊物の購入申し込みと閲覧、複写申込みについて

ジャーナルのバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングズ等学会発刊物をお求めになりたい場合、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲーター CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧、印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

# 2013年度決算案・2014年度予算案（鳥越）

- ・2013年度収入決算は、前年度からほぼ変わらないが、「年会費」「繰越金」は減少しつつある。
- ・2013年度支出決算は、2012年度支出決算より約16万円増額して計上している。これは2010年度より値上がりが続いている「ニューズレター費」内「印刷費」の増額、年次大会ポスターの修正印刷費用、および「学術局セッション出張費」の増額によるものである。なお、東北支部の記念誌発行費用は「予備費」内「その他」に計上した。
- ・2014年度収入予算は、「年会費」を現状に合わせて減額した。また、来年度年次大会が地方での開催であることを踏まえて、「年次大会関係費」内「大会参加費」および「広告費」「展示費」を減額して計上した。
- ・2014年度支出予算は、「予備費」内「公務出張費」を現状に合わせて増額し、「予備費」内「その他」として、九州支部記念誌発行費用を計上した。来年度年次大会ではバス運行費が必要となるため、「年次大会関係費」内「その他」に計上している。なお、ニューズレターのデジタル化に伴う発行費予算の調整については、6月の理事会にて審議する予定である。

## 広報局便り

### 1. 第44回年次大会の広報局活動

広報局では、プログラム広告と大会当日の書籍展示のご協力を呼びかけました。今年は、以下の企業様からのご協力を得ました。心からお礼申し上げます。

#### ①プログラム広告へのご協力企業様（受付順）

京都書房、春風社、有斐閣、キャンパスサポート西南、金秀アルミ工業、日新電器産業、日新電機システム、(株)T&T、ダイノス・セシールコミュニケーションズ、沖縄浄管センター

#### ②書籍展示ご予定企業様

三修社、榕樹書林

両日のご出展の予定です。多くの参加会員の皆様に、出展ブースへのお立ち寄りをお願いいたします。

### 2. NLについて

前号よりご報告いたしております通り、今号をもちまして、CAJ NLの紙媒体での発行は最後となります。次号107号からは電子媒体による発行となり、CAJ ホームページに掲示予定です。今後、会員の皆様のニーズを満たすような形態を模索して参りますので、皆様からのご意見、ご要望、ご提言等をよろしく願います。

また、引き続き「コラム：コミュニケーション教育」および「書評」へのお原稿も募集しておりますので、奮ってご寄稿下さい。

### 3. ホームページについて

年次大会発表論文募集の広報活動の強化を行いました。

#### ①トップページに特設の募集要項を掲載

#### ②学術局と連携し、年次大会案内のページのデザインを一新

（募集要項と発表申込のプロセスを分かりやすく提示できるように工夫）

### ③ニュースレター公開による戦略的な学会広報の実施

(ニュースレター最新号(105号)を掲載し、学会会員以外の方々にも幅広く公開)

広報局では、今後も事務局と連携し、HPでの年次大会広報の強化を実施します。また、年次大会一般参加者数増強を目指した戦略的HPの運営を目指します。

4. ホームページなどに関して、ご意見やご提言があれば、広報局まで、お気軽にご連絡をお願いいたします。また、多くの情報をCAJホームページ(<http://www.caj1971.com>)に掲載していますので、時々、ぜひご覧ください。

(広報局長 高永 茂)

## 支 部 ニ ュ ー ス

### ●北海道支部

支部長 町田佳世子

2013年度支部研究会を、2014年3月15日(土)藤女子大学北16条キャンパスにて開催しました。研究発表は、足利俊彦先生(北海道医療大学)「動画を活用した授業実践報告～異文化理解促進の試み～」と町田佳世子(札幌市立大学)「人と集う楽しみは運動を継続する要因となりうるか～山形県上山市健康講座調査から～」の2件でした。参加者数は、会員7名に加えて、大学生2名の参加があり、全部で9名となりました。少人数でしたので、机をコの字に並び、互いの顔を見ながら発表を聞き、質問できるようにしました。



2013年度北海道支部研究会 (2014年3月15日)

また、研究発表終了後、同じ会場で茶話会を行いました。9名全員が参加し、研究発表の内容について引き続き活発に質問や意見を交わしました。昨年支部研究会後の茶話会でも感じたのですが、時間が限られた研究発表の場と異なり、時間を気にすることなく、くつろいだ雰囲気の中で話すことができますので、質問や意見交換も十分に行うことができたのではないかと思います。

私、町田佳世子は、今年度もちまして、2期4年の任期を終え、長谷川聡先生(北海道医療大学)に支部長のバトンをお渡しすることになりました。北海道支部の皆様、宮原哲会長、理事の皆様、各支部の支部長の皆様、そして研究発表やニュースレターで様々な交流をさせていただいた東北支部の皆様を支えていただき、無事に任期を終えることができることを感謝しております。

また長年運営委員としてご尽力くださいました白鳥亜矢子先生(北海道医療大学)も、今期もちましてご退任となり、北海道支部も新体制でのスタートとなります。新役員のお名前は以下のとおりです。これからも北海道支部の応援、よろしくお願いいたします。

北海道支部

支 部 長 長谷川 聡先生 (北海道医療大学)

副支部長 足利 俊彦先生（北海道医療大学）  
運営委員 伊藤 明美先生（藤女子大学）  
運営委員 水島 梨紗先生（札幌学院大学）  
運営委員 山田 晃子先生（札幌静修高校非常勤）

---

## ●東北支部

支部長 小林 葉子

### 活動報告

- ・ニューズレター21号発行とHPへの掲載
- ・2014年3月15日(土)午後13時～17時 仙台市にて定例研究会開催。5件もの発表があり、日頃我々が授業で行っている「コミュニケーション教育実践」について今後さらに情報交換をしていきましょう、と活発な議論を行いました（以下、敬称略）。
  1. [学校教育研究]「情報社会における“いじめ”問題の実態～学生のレポート分析の報告～」小島 正美（東北工業大学、NPO法人地域情報モラルネットワーク）・宮曾根 美香（東北工業大学）
  2. [英語教育研究]「インタラクションを通じた授業外英語学習の促進：学習支援と評価方法に関する研究」石橋嘉一（山形大学）
  3. [国語教育研究]「可視化された意見をもとに話し合いを円滑にする授業－中学国語での実践報告－」青田 美香（刈羽村立刈羽中学校）
  4. [コミュニケーション教育研究]「非言語コミュニケーションの教授法－授業内にできる実験－」會澤 まりえ（尚絅学院大学）
  5. [コミュニケーション教育研究]「「コミュニケーション教育」を語る－介護教員講習会におけるグループディスカッションを題材に－」五十嵐 紀子（新潟医療福祉大学）・関 久美子（新潟青陵大学短期大学部）

[支部会議での決定事項]：(1)次回のニューズレターより紙媒体は廃止し、デジタル化に一本化し、支部HPに掲載；(2)東北支部会員の皆様のうち、メールアドレスの登録を頂いている方々には一括してBCCメールにて連絡

- ・今後の活動予定
  1. 2014年6月21日（土曜日、午前中）年次大会での支部会議、新体制決定
  2. ニューズレター22号（デジタル版）を発行
  3. 研究大会を仙台市にて開催（2014年11月8日土曜日に決定）
  4. HPの随時更新：<http://www.cajl971.com/~tohoku/>

---

## ●中部支部

支部長 福本 明子

2014年1月以降の中部支部の活動を報告致します。

- 1) 4月にNL第4号を発行しました。内容は、年次大会講演の所感（1名）、支部大会報告（5名）、書評（9



本)、会計報告、滞在記（2本）、会員紹介（1名）です。中部支部会員、CAJ理事、支部活動にご参加、NLにご寄稿いただいた方には、郵送で送付しております。支部のホームページ(<http://www.caj1971.com/~chubu/>)にもアップしてあります。是非、ご覧ください。

2) 運営体制が変更となります（2014年6月1日より）。次期支部長は藤巻光浩先生（静岡県立大学）です。運営委員には、森泉哲先生（南山大学）、今井達也先生（南山大学）、宮崎新先生（名古屋外国語大）、平田亜紀先生（愛知淑徳大学）、佐藤良子先生（愛知大学）、福本明子（愛知淑徳大学）です。よろしくお願ひします。

## ●関西支部

3月1日(土)、大阪キリスト教短期大学で、支部大会を開催しました。大会参加者は18名、懇親会への参加は7名で、活気のある実り多い大会となりました。

まず、支部総会において、2013年度事業及び決算報告、2014年度事業計画及び予算案、新運営委員案が、審議、承認されました。これに伴い、支部長は森口から守崎先生に引き継がれることになりました。

次に、西南学院大学から清宮徹先生をお迎えし、学術局セッションとして「組織コミュニケーションの視点で考える食材偽装」をテーマに、ご講演頂きました。ご講演内容は、ホテル・レストランの「食材偽装問題」に関して、「あらゆる組織現象は、コミュニケーションを通じて社会的に現実が作られる」という視点から展開されました。「積極的組織虚偽」「受動的（防衛的）組織虚偽」等をキーワードとして、食材偽装における無自覚的な歪んだコミュニケーションに焦点を当て、従業員のアイデンティティーが知らないうちに商品化されてしまう実態を浮き彫りにするものでした。

講演の後、以下の4つの研究発表がありました。

- 1) 「学生生活への満足度向上」と「大学生としての共同性確立」に対する伝言板の効果についての研究。
- 2) 「科学的語り」と「宗教的語り」の間に生じる矛盾は、文化によってどのように処理されているかについての研究。
- 3) 日米のテレビコマーシャルを「集団主義」や「男性優位性」の視点から調査し、両者の差が比較的小さいことを指摘した研究。
- 4) 欧米と比較して高い就職率をもつ日本の大学を事例として、その成功要素を分析した研究。

支部大会の最後は、場所を近隣のエスニック料理店に移して懇親会が開かれました。



## ●中国・四国支部

・支部メンバーの希望により、2014年度の支部大会は12月6日（土曜日）に開催することとなりました。今年の会場は愛媛大学です。featured speaker はまだ決まっておりません。

・2013年 CAJ 中国四国支部大会の発表集は、近々 HP に掲載予定です。

URL: <http://web.iess.ehime-u.ac.jp/katudouhoukoku.html>

---

## ●九州支部

支部長 伊佐 雅子

今年の第21回支部大会は、10月4日(土)に大分市の「ホルトホール大分」(408会議室)で開催します。大分で支部大会を開催するのは4回目で、大会委員長は日本文理大学の清水孝子先生です。

大分県は別府や湯布院に代表される温泉、そして大分ブランドの関アジ・関さばといった新鮮なお刺身も堪能できる魅力的なところです。今回の会場となる「ホルトホール大分」は、市民が集い、学び、憩い、賑わい、交流するといった情報文化の発信を目指した多目的施設です。JR大分駅からも徒歩1分というアクセスの良さから、市民には人気のスポットです。大会テーマは「介護・福祉とコミュニケーション」です。学会会員と一般の人々を対象に、テーマに沿った基調講演とシンポジウムを計画中です。多くの皆様の参加を期待しております。

また、支部創立20周年の記念誌の発行に向けて、現在、準備を進めております。5月末に投稿を締め切り、その後、編集作業を行い、10月に発行予定です。今年の支部大会で会員みなさまに記念誌を配布できるように努力していきたいと思っています。

# NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、2014年10月号（第107号）より電子版に完全移行いたします。

電子版の形態につきましては現在理事会および広報局内で検討中であり、当面は現在と同様にHP上での掲載を予定しておりますが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築しての配信も視野に入れております。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にて **メールアドレスの登録** をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください）。

今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

## メールアドレスの登録（変更）方法

- ① 本学会HP（<http://www.caj1971.com>）にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下、「1. オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会ページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。
  - \* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

## 会員番号とパスワードの取得方法

- 会員番号は、このニュースレターが郵送された際の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）。
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 学会支援機構の連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

一般社団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012 E-mail: [office@asas.or.jp](mailto:office@asas.or.jp)

## 編集後記

紙媒体としては最後となりますNL106号をお届けいたします。郵送物の封を空けて印刷物を手に取って眺める、という伝統的なスタイルが、様々な場面で終焉を迎えつつあります。一抹の寂しさを禁じ得ない反面、アナログ媒体が我々に与えてきた精神的悦楽を、今後デジタル媒体がどのような形で進化させていくのか、楽しみでもあり、また身の引き締まる思いでもあります。広報局では、会員の皆様とコミュニケーションを重ねながら、新しい電子NLの形を模索していきたいと考えております。今後ともNL編集・作成へのご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

年次大会まで後一ヶ月足らずとなりました。沖縄にて、多くの会員の皆様とお会い出来ることを楽しみにしております。

広報局ニュースレター担当 小山 哲春